

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2003

1/1

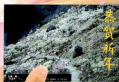
NO.834 毎月1日発行

大切な人に、
新年のごあいさつ



謹賀
新年

本年もよろしく
お願いします



年賀状は、
西さがみ連邦共和国
ポータルサイト「西遊季」
で提供している、年賀
状素材ダウンロードを
利用して作成しました。

すべきこと、できること

新しい年が始まります。

「一年の計は元旦にあり」と言いますが、

皆さんはどのような一年にしたいと考えていますか。

小田原の未来と新年の抱負について、

小田原市を代表する二人に語っていただきました。

市民の皆さん、明けましておめでとうございませう。新しい年に向けて、このまちを築いてきた先人に感謝するとともに、未来を担う子どもたちのためにすばらしいまちを残そうと、気持ちを新たにしています。

全体を見渡し、適切な状況判断を

昨年は、あらゆることに関して激動の年でした。この激動はまた続いているし、日本全体も依然として停滞したままです。しかし今年は、少し変わるのではないかといい気配がしています。混沌とした状況であることは変わらず、混乱が続くでしょうが、今までの状況を認めた上で、腹を据えて取り組む年になると感じます。言ってみれば今年は「時代の峠」。霧の中を無我夢中で進んできたら、全体が見渡せるようなところに来た、というイメージです。私は足柄峠が好きなのですが、あの場所にいると、歴代の武将にとつてここがとても大事な場所であることがよく分かります。峠とは、次でどうすべきか、判断を求められる場所であったとも思っています。

まちづくりは人づくり

政策総合研究所の提唱している「おだわら千年蔵構想」のとおり、小田原のまちには眠っている資産がまだまだたくさんあります。

今、「まちづくり応援団準備会」、「板橋まちなみファクトリー」、「小田原やんべえ倶楽部」など、まちをよくしようと自発的に活動している団体が出てきています。国府津地区にも、国道1号周辺のまちなみを調査するための調査事務所ができました。まちが元気になるようにと考えながらまいた種から、芽が出てきているのは、とてもうれしいことです。まちの活性化に向けて、一緒に努力していきたいですね。

「西さがみ連邦共和国」も1年を迎えました。毎年大勢の方に楽しんでいただいているツデーマーケットは、建国記念大会としたことでバラエティに富んだコースとなり、今回もとても盛況でした。私は、この西さがみ連邦共和国が、皆さんの間に着実に浸透してきているのを感じます。関係者の皆さんの努力はもうほとんどですが、この地域の結びつきをもっとも強いのでしょ。住民主導のイベントも広がって、一体感が深まっていったらうれしいですね。

21世紀は、「市民の世紀」、「市町村の世紀」と言われています。小田原の歴史や自然環境、交通の至便性、豊富な人材を生かし、「市民参加型都市」として成熟し

積極果敢に攻める

していけるかと思っています。市民の皆さんには、健康に気を付けていただいて、これからもいっそうのご活躍を期待しています。

市では昨年、新たな行政改革大綱「おだわら改革宣言2000」を策定しました。まず職員の意識改革として、職員にとってあるべき姿を簡単に言い表した「元気に笑顔でできばき」というキャッチフレーズを、今月から胸に掲げます。そして一丸となつて、市民サービスの向上に努めていきます。

平成10年にスタートした総合計画「ビジョン21おだわら」の、後期基本計画の策定の準備も始まります。中心市街地活性化推進本部も昨年9月に立ち上げ、3月には小田原駅東西自由連絡通路がいよいよ供用開始です。これを一つのターニングポイントにし、市長として、積極果敢に攻めていきます。



【小田原市長】

小澤 良明

小田原の未来のために。



小田原駅東西自由連絡通路の工事風景

新年明けましておめでとうござい
ます。皆さんにおかれましては、希望
に満ちた新春をお迎えのことと、心
よりお慶び申し上げます。

**一人は万人のために、
万人は一人のために**

今年は未年です。優しい心と強い心を
一人一人が持つて、人間関係を重んじ合
い、明日の小田原のあるべき方向をとも
に考え、羊の群れのようにがんばる年にな
れたいと考えています。

みんながともに生きていくために必要
なのは、「一人は万人のために、万人は
一人のために」という思いを常に持つこ
とだと私は思います。家庭でも、地域で
も、学校でもそうです。一人一人が、自
分のことだけでなく、世のため人のため
というこころを心がけるといふ姿勢です。
小田原市では「静かなる教育論議」に
取り組んでいますが、大人が未来を担う
子どもたちともつともつとふれあい、た
くさん話し合うことが大切だと考えてい
ます。

心を合わせ、力を合わせる

小田原市では、さまざまな広域連携に
取り組んでいます。11月には「西さがみ
連邦共和国」が建国1年を迎えました。
5月に行われた「箱根路森林浴ウォーク」
には私も参加し、箱根のみずみずしい自
然を大いに楽しみました。

この広域連携も、それぞれの目的や目
標に向けて、まずみんなで心を合わせ、
あるべき姿を目指して力を合わせていく

ことを期待しています。議員同士の交流
も進めていきたいですね。

もてなしの心があふれるまちへ

小田原の魅力として、温暖な気候など
が挙げられますが、一番の魅力はここに
住んでいる皆さんの、よすぎるほどの温
かい人柄だと思っています。小田原は、
この人柄を生かして住みよいまちを作っ
ていける、希望のあるまちです。

今、中心市街地では、後継者不足など
で空き店舗が増えたり、お客さんが
減っていることがあります。個々の商店に
抱えていることと思います。その中で、
知恵を絞って努力をしていらつしやいま
す。まちなかを元気にしようと、市もい
ろいろな取り組みをしています。

この3月には、いよいよ小田原駅東西
自由連絡通路の供用が開始されます。こ
れを一つの契機に、「いらつしやいませ」



[小田原市議会議長]

谷神 久雄

「ありがとうございました」という、も
てなしの心があふれたまちになることを
期待しています。今も心がけていられる
とは思いますが、小田原駅の雰囲気の変
わるときに、このもてなしの心で弾みを
つけて、まちがもつと元気になるとい
なと思うのです。

私は小田原が大好きです。だから皆さ
んにも、「小田原に住んでよかった」と
感じてもらえるまちにしたいです。そし
て、市外に住んでいる人たちからも
「住んでみたいまち」と思えるようにな
らしたいと考えています。

市民の皆さんと行政と議会、みんな
で力を合わせて本市のあるべき姿を考え
、できることから一歩一歩着実に施策を
実現し、夢と希望をもてるまちとなるよ
うに、精一杯取り組んでいきたいです。

建国から1年

「西さがみ連邦共和国」の歩み

日本でも有数の景勝地・保養地として広く知られ、歴史的にも深いつながりがある小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町。「西さがみ連邦共和国」はこの1市3町が、市町村合併も視野に入れながら、行政圏・生活圏として協働し、それぞれのまちにある資源や魅力を十分に発揮した新しい型の広域連携を創造するために、平成13年11月に建国されました。

建国して1年が経ち、14年度には、観光ばかりでなく教育・文化・生活にいたる120もの事業を「連携交流事業」と位置づけ、住民の皆さんが相互に交流できるような取り組みをしてきました。また、広域的なまちづくりを進めるため、行政同士の連携事業も行ってきました。今までの取り組みをご紹介します。

●西さがみ連邦共和国推進室 ☎331404

住民相互の交流

箱根路森林浴ウォーク2002

5月25日(土)・26日(日)には、レイクアリイナ箱根をスタート・ゴールとする「箱根路森林浴ウォーク」が開かれました。1市3町の皆さんも数多く参加され、総勢1,300人の参加者は、晴れ渡った空の下、すがすがしい風に吹かれながら、芦ノ湖・大涌谷の噴煙、美しい富士山といった雄大な景色を眺め、森林浴を楽しみました。



地球ファミリ―環境議会

今まで市内の小・中学生を対象に行われていた「地球ファミリ―環境議会」は、14年度参加枠を3町の小・中学生にまで拡大しました。55人の参加者が、7月から8月にかけて、芦ノ湖周辺の自然観察やリサイクル工場などの見学、愛知県佐久島でのエコキャンプなどを体験し、交流を深めました。その後、小田原市の議会を使い、議会ながら、体験で学び考えたことを4人の首長が交代で登壇し、子どもたちの素朴な質問に答えていました。



低公害車体験フェア

きれいな大気環境を守るために開いている「低公害車体験フェア」。5回目を迎えた14年度は、小田原会場のほかに箱根会場でも実施し、両会場あわせて約800人の方が低公害車を体験しました。

11月12日(日)には、「低公害車シンポジウム」自動車と地球環境の未来」を開き、三本和彦さんの基調講演に続いて、三本さんと4人の首長が低公害車と環境保全などについてパネルディスカッションを行いました。300人あまりの参加者は、熱心に話に聞き入っていました。



城下町おたわらツデーマーチ

11月16日(土)・17日(日)には、「城下町おたわらツデーマーチ」西さがみ連邦共和国建国記念大会が開かれました。従来、小田原の6コースのほかに、湯河原・真鶴コースと箱根コースが新設され、過去最多の約9,000人が、晩秋の紅葉、海や山のどかな田園風景を眺めながらのウォーキングを楽しみました。また16日には、小田原・城下町大使の阿藤快さんがお越しになり、参加者を激励したあと、尊徳(宮金次郎・富士見)コースの10kmコースを実際に歩



かれました。ゴールの小田原城では参加者のためにつみれ汁が振る舞われ、1市3町のボランティアや職員900人の協力体制の上に成功した大会でした。



広域連携によるまちづくり

総合ポータルサイト「西遊季」

西さがみ連邦共和国内の観光やイベント情報を発信するホームページ「西遊季」。四季折々の西さがみを周遊していただくとうと名付けられた、民間情報や行政情報を含むコミュニケーションページです。



園域内の各種ホームページを統合できた、エリアに興味を持つ人が気軽に質問し、見た人が答える交流機能があつた。アクセスして、取っておきの情報をお寄せください。

URL: <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/giyuki/>

中国への観光プロモーション

8月28日(金)・30日(日)、中国の観光事情調査と誘客宣伝のため、小田原市長・箱根町長・湯河原町助役ほか総勢7人で北京市を訪問し、西さがみ連邦共和国の優れた自然・文化・歴史などの観光資源の

PRを行いました。一行は、中国国家の観光局、北京市国際交流課、北京市の観光局、中日友好協会を表敬訪問したほか、政府指定旅行社への観光プロモーションを行い、中国の観光事情について活発な意見交換を行いました。この観光プロモーションを契機に、今後は、誘客についてさまざまな検討をしていきます。



地域通貨を活用した地域商業などの活性化に関する調査研究

商業振興につながる地域通貨モデルを

それぞれの地域の個性や魅力をいっそう活用するために、さらなる広域的なまちづくりの方策を考え、この地域の将来について住民の皆さんと議論を深めるワークショップを開きます。

フォーラムでは、西さがみ連邦共和国の新しいまちづくりを考えるためのきっかけとする講演とパネルディスカッションを行います。また、広域連携の大きな成果の一つであるフィルムコミッション設立を記念して、この事業に対する理解を深めていただくために、地域にゆかりのあ

構築するための調査研究（中小企業庁事業）のモデル地区として、全国5か所のうちの1か所に決定しました。このエリアの研究テーマは、「観光資源を活用した地域活性化モデル」。現在、中小企業庁とともに、課題整理を行いながらモデル構築へ向けて研究をしています。

広域的なまちづくり推進調査事業

1市3町は、国土交通省の「市町村合併による広域的なまちづくり推進事業」の対象地域にも選定されています。地域振興や広域的なまちづくりの視点で、この地域に必要な将来ビジョンのあり方について検討を進めています。

広域連携と市町村合併に関する調査研究

地方分権時代に対応すべき行政体制を確立するため、広域連携の強化や事務事

の俳優などを招いてのゲストトークを行う参加者には、抽選で記念品を贈呈します。ぜひご参加ください。

日時 2月13日(木)13時30分～17時

場所 湯本富士屋ホテル 箱根町湯本

内容

■第1部 「新しいまちづくり」広域連携と市町村合併」

基調講演「飯」市町村合併と21世紀のまちづくり」

業の協働化のための方策を探ります。そして、1市3町の現況や特性などを収集分析し、合併を想定した場合の利点や懸念される問題点、協議・調整を要する事項などの洗い出しを行っています。

「西さがみ連邦共和国フィルムコミッション」設立

映画やテレビドラマの撮影を支援することで、地域のイメージアップや活性化を進める「フィルムコミッション」を、2月1日に設立します。この地域は、豊かな自然や名所・旧跡などに恵まれ、以前から映画やテレビドラマや旅番組など、さまざまな撮影が行われてきました。



「広域連携フォーラム」広域連携による21世紀型の地域づくり」開催！

講師 市町村合併問題の研究者 パネルディスカッション「新たな広域連携による地域づくりを考える」

パネリスト 小澤良明（小田原市長）・山口昇士（箱根町長）・三木邦之（真鶴町長）・米岡幸男（湯河原町長）ほか

■第2部 「新たな広域連携の構築」西さがみ連邦共和国フィルムコミッションの設立」

設立記者対談「フィルムコミッションによる魅力ある地域づくり」

これからは、西さがみ連邦共和国1市3町の行政と観光協会が中心となり、商工会議所、温泉旅館組合、商店街など関係団体の協力をい



ただきながら、ますます充実したロケ支援を展開していきます。

※西さがみ連邦共和国フィルムコミッションに関する問い合わせ先

小田原市広報広聴室 ☎331261
箱根町観光振興課 ☎0460057410

真鶴町産業観光課 ☎681131
湯河原町観光課 ☎632111

出演 船越英一郎さん(俳優・映画監督・他都市のフィルムコミッションの担当者ほか)

申込 1月31日(金)までに、西さがみ連邦共和国推進室 ☎331404

※ファックス・電子メール・はがきも可。住所・氏名・電話番号を明記。

331286

Eメール: info@film@city.of.odawara.kanagawa.jp

T250-8555
小田原市西さがみ連邦共和国推進室

これからのまちづくりを考える

合併の効果と懸念される問題点

一般的な効果としては、次のようなことが挙げられます。

- ① 効率的な行政運営が可能になる
総務などの管理部門がスリム化され、首長や助役、収入役、さらに議員や委員会の委員の総数が減るため、人件費などの経費を減らすことが可能になります。
- ② 住民の利便性が向上する
比較的近くにあるのに、これまで使えなかったり使用に制限があったりした公共施設が、すべて同じ条件で使えるようになります。また、公共施設の整備も広域的に行うことにより、質の高い充実した施設整備を図ることができるといえます。
- ③ 難しい課題に対応できる
ダイオキシンの対策や介護保険、観光振興策など、一つの自治体では取り組みが難しい課題に対して、効果的な対応ができるようになります。

また、企画部門に多くの職員を配置でき、市町村自らが政策をつくり実施することが可能になるため、地域の実情にあわせた課題解決ができるようになります。



時代とともに変化する、社会と私たちの暮らし。

地方が主役の時代になり、多くの市町村では、住民サービスをよくするための新たなまちづくりの一つとして、「合併」について盛んに議論をしています。小田原市では、現在「西さがみ連邦共和国」の中で、合併問題について取り組んでいます。皆さんもこの機会に、合併問題について考えてみてください。

◎西さがみ連邦共和国推進室

☎ 33 1404

「市町村合併」とは？

「市町村合併」とは、いくつかの市町村が一つにまとまり、より大きな規模や行政能力を持つ市町村となって、広い範囲でまちづくりを考えていくことで、よりよい住民サービスを提供しようとするものです。

門司市や小倉市などが合併した「北九州市」、平市や常磐市などが合併した「いわき市」は、市町村合併の代表例として

よく知られています。最近では、田無市と保谷市が一つになった「西東京市」、浦和市・大宮市・与野市が一つになった「さいたま市」が誕生しています。

合併には、A市とB市が一つになって新たにC市ができる「新設合併」という形態と、D市がE市に組み込まれる「編入合併」という形態の二つがあります。たとえば、さいたま市は、浦和市・大宮市・与野市の3市が一つになって生まれた「新設合併」であり、新潟市は黒埼町を取り込んだ「編入合併」によって現在に至っています。

なぜ今、市町村合併なのか

地方分権一括法の施行によって、国や県が市町村の仕事の細部にわたって指示をする時代が終わり、市町村にはそれぞれの地域の課題を自らの考えと力で解決し、質の高い住民サービス

を行うことが求められています。

一般的には、次の5つの点が背景になり、それを解決するための一つの方法として「市町村合併」が検討されています。

- ① 本格的な地方分権時代が到来したこと
- ② 2006年をピークに人口が減少に転じ、少子高齢化がさらに進展すること
- ③ 交通の発達に伴い、通勤通学や買い物などの住民の日常生活圏が、市町村の区域を越えて広がっていること
- ④ 厳しい財政状況の中で効率的な行政運営が必要とされていること
- ⑤ 廃棄物対策やダイオキシン問題など、一つの市町村では対応できない課題が増えていること

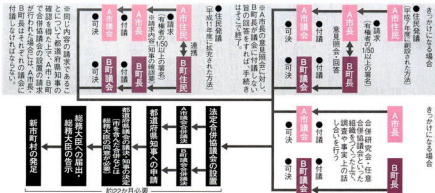
小田原市の場合、平成12年に特別市に移行し、環境保全や都市計画に関する事務が県から委譲されており、効率的な行政運営を行うのに適した人口規模であるにも思えます。しかし、市民の皆さんがまらの将来を考えたときに、市町村合併も一つの選択肢としてとらえてみることも必要ではないでしょうか。

- ① これまで培われてきた地域の伝統や文化、コミュニティが失われてしまうのではないかと
- ② 規模が大きくなることで、住民の声が届きにくくなるのではないかと
- ③ 中心部だけがよくなり、周辺部がさびれてしまうのではないかと



「市町村合併」の手続き

市町村合併が行われるまで



市町村合併を支援する「合併特例法」

合併特例法とは、「市町村の合併の特例に関する法律」として、平成11年7月に制定された地方分権一括法の中で、市町村合併を推進するために大幅な改正が行われました。この法律では、市町村の合併についてのさまざまな特例措置や財政支援措置を定めています。期限は平成17年3月31日までの時限立法で、国はこの法律の期限の再延長はないとの方針を打ち出しています。

この期限までに合併を行った市町村には、次のような特例が設けられます。

① 地方交付税の額の算定の特例

一般的には、合併すると経費削減が可能になるため、合併前に比べて地方交付税額は少なくなります。しかし、現実的には、合併したからといってすべての行政費用について効率的な運営が可能になるわけではないため、合併後の10年間は、合併前の交付税額の合算額を下回らないようにし、その後の5年間も額は段階的に縮減されます。

※ 地方交付税：市町村の財政状況などに応じて国から交付される財源

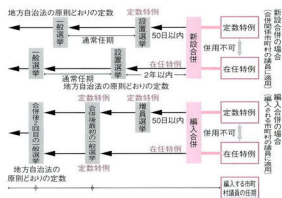
② 地方債の特例

市町村建設計画に基づく一定の公共的施設の整備や、合併後の市町村が行う地域振興のための基金の積み立てについて、「合併特例債」という通常より有利な地方債を、合併から10年間財源として見込むことができます。

※ 合併特例債：まちづくりのための事業費への充当率95%・元利償還金の70%の財源が国から交付される

③ 議会の議員の定数及び在任に関する特例

合併後の議員の身分は、新設合併が編入合併かによって異なり、地方自治法による一般原則が、合併特例法による特例措置かを選択することができます。この選択は、合併協議会で協議し、さらに各市町村がそれぞれの議会で議決する必要があることです。



明治から昭和、そして平成へ市町村数の移り変わり

現在、全国の市町村数は3,218(平成14年4月現在)。明治以降、「明治の大合併」と「昭和の大合併」の2度にわたる合併を経て、この数に至っています。小田原市もこれ



に漏れず、2度の合併を経験して、現在の市域まで拡大されました。昭和の大合併は記憶に残っている方も多いことでしょう。

● 明治の大合併・町村数は5分の1に71,314から15,859

明治22年4月1日に、近代的な地方自治制度である「市制町村制」が施行され、全国一斉に合併が進められました。江戸時代から引き継がれた自然発生的な町村を合併して、教育・徴税・土木・救済・戸籍の事務処理など行政機能を充実させることを目的に、約3,000の50戸を標準規模として行われ、結果として町村数は約5分の1になりました。明治の大合併より以前の町村の多くは、現在の大字や小字の名前として残されています。

● 昭和の大合併・市町村数は3分の1に9,868から3,472

戦後、新憲法のもとでは、新制中学校の設置、市町村消防や自治体警察の創設、社会福祉や保健衛生関係の新しい事務が市町村で処理されることとなり、地方自治の確立が大きな課題となりました。しかし、当時は町村の行政規模が非常に小さく、行政能力も乏しい町村が多かったため、新しい事務や権限を行うための体制を整備することが不可欠でした。

そこで、昭和28年10月に「町村合併促進法」が制定され、新制中学校が合理的に運営できる人口規模(約8,000人)を標準に、合併が進められました。これにより、昭和28年から36年までに、市町村数はほぼ3分の1に減りました。

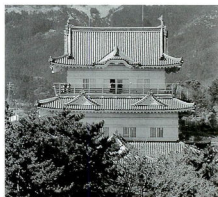
これからの
まちづくりを
考えよう

そして、時代は平成になりました。全国には3,200あまりの市町村がありますが、国ではこれを1,000程度にしようと考えています。市町村合併支援本部を設置し、合併特例法の期限である平成17年3月までに合併した市町村には、住民発議制度や地域審議会といった制度的な支援措置、地方交付税額の算定の特例など財政的な支援措置、そのほか市への昇格条件の緩和などの特例措置など、さまざまな優遇策を打ち出してきたいます。この国の動きに連動するように、全国の8割以上の市町村が、合併についてならぬかの研究をしています。

小田原市の歩み

城下町、東海道の宿場町として繁栄してきた小田原は、明治4年に小田原県の県庁所在地となり、足柄原市、神奈川県の小田原支庁などが置かれた後、明治22年の町村制施行によって、新玉・万年・幸・緑・十字の5町が合併し、「小田原町」になりました。

その後、昭和15年12月20日に近隣の足柄町・大窪村・早川村・酒匂村の一部と合併して「小田原市」として市制施行、人口54,699人では下府中村と、25年には桜井村と、29年には豊川村・上府中村・下曾我村・国府津町・酒匂町・片浦町と、31年には曾我村の一部と合併しました。昭和46年には橋町を合併し、県西地域の中核都市としての発展が続けています。小田原市



周辺市町の状況

は、神奈川県で最後の合併を経験したまちでもあるのです。

南足柄市と足柄上地区1市5町では、足柄上地区広域行政協議会の中で合併問題について調査研究に取り組んでおり、その結果は報告書にまとめて発表されています。

松田町では、県内で初めて、1市5町を対象とした合併協議会設置の住民発議が起きました。結果として他の1市4町は住民発議を議会に付議しないことを松田町に対して回答しています。

南足柄市・大井町では、それぞれ住民懇談会を開き、市町村合併についての説明をしたり住民の意識調査を行ったりしています。

さらに、真鶴町と湯河原町では、9月に任意の合併協議会を設立し、17年3月の合併を目指して本格的な協議を始めています。県西地域はかりでなく、県内では、平塚市・藤沢市・寒川町・大磯町・二宮町・茅ヶ崎市(オプサーバー)は、政令指定都市を目指して「湘南市研究会」を

立ち上げるなど、周辺市町でも市町村合併に向けた動きが活発化してきています。

みんなで考えよう

全国でおおよそ8割の自治体が合併について研究や検討をしています。その組み合わせや型はさまざまです。

たとえば、住民の日常生活圏を優先し、県境を越える合併を考える市町村があります。平成になって全国初の越県合併の研究は、長野県木曽郡山口村と岐阜県中津川市です。木曽郡の南端に位置する人口2,000人の山口村は、岐阜県東美濃地方の中心都市である人口55,000人の中津川市の中心部まで車で十数分。村の通勤者の6割、高校通学者の5割が、中津川市を含む岐阜県側に通うなど、日常生活圏が一体化しているために合併に向けて本格的な検討をしているようです。

一方、福島県矢祭町のように、「合併しない宣言」をしている自治体もあります。矢祭町は「合併を前提にしてまちづくりを進めてきたのではない、財政が厳しくても、合併しなくても自立できるまちづくりをしてきた」という考えから、この宣言が出されました。

あるいは、山梨県上九一色村のように、村を南北に分割して市町村合併を進めようとしているところや、群馬県川場村のように、約60km離れた東京都世田谷区との飛び地合併を選択肢の一つに挙げている自治体もあります。小田原市では、現在、西さがみ

連邦共和国という枠組みの中で、市町村合併に関する調査研究に取り組んでいます。また市議会では、議員15人で構成する「市町村合併問題調査特別委員会」を設置し、合併問題に関する勉強会や研究を行っているところです。

市町村合併は、市民生活や地域の将来に大きな影響を及ぼすものです。どの市町村と合併するかということではなく、合併するかしないかということも含めて、市民の皆さんが最終的に判断すべきことです。さまざまな選択肢がある中で、自分が住むまちをこれからどのようなまちにしたいのか、どの方向に進んでいけばいいのかを、ぜひ皆さんも考えてください。



「小田原らしさ」

あふれる魅力的なまちに

小田原駅東西自由連絡通路情報

自由通路の一部開通は、3月30日に決定！

3月21日～25日に、開通記念イベント開催

市民の皆さんの長年の夢であった小田原駅東西自由連絡通路が、3月30日(日)から一部開通します。

市ではこれを記念し、3月21日(祝)から

◎広域交流拠点整備課 ☎331653

25日(火)の間、開通記念の式典やイベントを開催する予定です。詳しくは広報おたわらでお知らせしていきます。ご期待ください。

「わたしたちの自由通路をつくる市民の会」発足～募金活動開始～



◎小田原商工会議所 ☎23-1811

もうすぐ開通する自由通路に市民の手で記念製作物を設置しようという、「わたしたちの自由通路をつくる市民の会」が設立し、12月9日(月)に総会が市役所で開かれました。

この市民の会では、市内にある1000を超える団体や企業に参加を呼びかけています。そして1億円を目標に皆さんから寄付金を募り、記念製作物を製作して、市に寄付することを計画しています。会では、今後も幅広く呼びかけを続け、参加団体を増やしていく予定です。

会長には原義明小田原商工会議所会頭、副会長には野地博自治会総連合会長が選出され、事務局は商工会議所内に置かれることになりました。

記念製作物には、巨大ちょうちん、ステンドグラス、大型ビジョン、陶板レリーフが予定されています。そして来年2月から7月まで募金活動を行い、自由通路の全面開通に合わせて設置することを目指しています。

「街かどコンサート」参加者募集中！

「にぎわい」のある魅力的なまちにするために、

まちなかにステージを設け、市民演奏家や生涯学習団体などによるコンサートなどを行います。活動発表の場を求めている方、ぜひご連絡ください。今後、詳しいことが決まり次第、お知らせします。



期日予定 2月15日(土)・16日(日)
3月1日(土)・2日(日)

本のりさいくるフェア

◎かもめ図書館 ☎497800

図書館などで不要になった本や雑誌を無料で提供すること「本のりさいくるフェア」。

かもめ図書館で毎年開かれていて、大好評のイベントです。これをもめ図書館のほか、中心市街地の空き店舗を利用して行います。

期日・場所 2月2日(日)かもめ図書館
3月1日(土)小田原駅前ビル

(旧丸井)

※3月には、「市史料展」おだわらふるさとの記憶」を同時開催。

小田原市中心市街地活性化推進本部(以下推進本部)の立ち上げからおおよそ3か月が経ちました。推進本部では、限られた財源を有効に活用しながら、即効性のある事業をきめ細かく展開していくために、さまざまな角度から検討を重ねています。今回は、3月末までに実現するために、12月補正予算に計上したいくつかの事業を紹介します。できることは速やかに実施に移していくように、今後も努めていきます。

◎産業政策課 ☎331519

商店街活性化事業

「緑」「花」といったキーワードでまちなかを飾り、観光や買い物をするのに商店街を訪れた方に、目でも楽しんでいただけるような空間を演出します。

春先に向けて、いつどこにどのような変化が表れるかを、お知らせしていきます。

これは便利！

栄町駐車場のこんなサービス

◎栄町駐車場 ☎237007

安心して駐車できるタワー式駐車場の、小田原市栄町駐車場(ツインパーク小田原)では、先月から最初の30分間の駐車料金を無料にしています。



皆さんにより便利に使っていただけるように、買い物中に増えた手荷物を保管できる無料のコインロッカーを置き、忘れ物をしたときや荷物を車に入れないときに車呼び出しの「二時お車降車サービス」、雨のときの車の無料貸出しなどをしています。小田原駅周辺へお越しの際は、ぜひご利用ください。現在、月ぎめ利用契約者も募集中です。

オーストラリア・ リフレッシュユースティ 現地通信

vol.4

オーストラリアに1か月から3か月の間滞在し、牧場体験や日常生活を通して心身ともにリフレッシュする「オーストラリア・リフレッシュユースティ事業」。
11月に帰国した重田知子さん（小八幡）のレポートです。

市民交流課 33-1707



↑くちなしの植樹

私の今回の旅の目的は、老後の生き方を探すことと、日本ではできないファームでの生活を体験することでした。

シドニー近郊のタラマラでは、買い物や掃除、近くの園芸店で買ったくちなしの植樹などをしました。牧場では牛で牛を集めサクに追い込んで体重を計ったり、ダニよけの薬を塗ったり、小屋にベンキを塗ったり、暖炉の薪を運んだり毎日

が忙しく、2か月はあっという間でした。毎日の食事は、物価の安さに加えて、牧場にたくさんあるつぶした牛の肉とで、主に日本食とステーキという感じで自炊をします。滞在先のオーナーが喜んだのは、牛のレバーで作ったレバーカツレツ。しばらくたての牛乳を使ったフレンチトースト。そして、粉のこんにくの素で作ったさしみこんにやくや煮物など、マンゴースイカ、メロンなど煮物も安く、魚は少し高めですが、鯛一匹でお寿司と塩焼き、あら煮と使い切れば、むしろ安上がりです。うれしくて楽しい体験でした。

マンリーのアジャズフェスティバルでは、姉妹都市委員会のジョアン・ソーバンさんと、ホームステイ先のアルバミさんたちとジャズを聞き、夕食を楽しみました。オーストラリアの広さと、海・空の青さ、人々のやさしさにふれ、何よりも自分らしく、自分のできごとをいきいきとできるということで、老後はオーストラリアに住むことも考え始めました。今回の夢のような経験をさせてくださった方々に感謝するとともに、今後何らかの形でお返しをさせていただけたらと思っています。



↑マンリージャズフェスティバルにて、ジョアン・ソーバンさんと



←ごみ出し：タラマラでは、大きな入れ物（ビンと言います）に生ごみと缶や瓶を大別して家の前に出しておくと、収集車がビンごと引き取り持ち上げて車にあげていきます。ビンも車がついているので、大きくても楽に運べます。

市民が主役です！

（仮称） 総合計画市民提言書作成策定委員会 設立準備会メンバー募集

企画政策課 33-1239



市では、平成10年にスタートした総合計画（ビジョン21）おたわら「前期基本計画」に基づき、さまざまな施策・事業に取り組んでいます。この前期基本計画は平成16年度で期間満了となるため、現在、平成17年度からスタートする後期基本計画の策定に向けて、準備を進めています。

前期基本計画を策定したときには、「総合計画市民百人委員会」を設置し、市民の皆さんとともに案づくりに行いました。これから策定する後期基本計画も、広く皆さんからご意見をいただくために、公募による（仮称）総合計画市民提言書作成策定委員会を設置する予定です。この委員会は、市民の皆さんに主体的に運営していただくことを考えています。

そこで、正式な委員会の設置に先立つて、公募による設立準備会を設置し、委員会の進め方や会議のルールなどを、あらかじめ市民の皆さん自身に決めていただくことにしました。今回は、この設立準備会のメンバーとなっていた方々の方を募集します。

第1回の会議は2月15日（土）午後を予定しています。

準備会での検討事項

①会の名称、②委員会の運営方法、③会議のルール、④事務局のあり方など

対象 市内在住・在勤・在学18歳以上の方（高校生は除く）、平日夜間の会議に出席できる方、30名程度。
※無報酬です。

※応募者が定員を大幅に超えた場合は、公開抽選（公開抽選の日時などは、1月中旬に応募者ご本人へ通知します）
検討期間 2月中旬から1か月程度。会議は週1回程度を予定。
※会議には必要に応じて、アドバイザーとして専門家の方に加わっていただきます。

応募方法 所定の応募用紙に、住所・氏名・性別・生年月日（年齢）・会社名または学校名と所在地・電話番号・応募の動機などを記入して送付。
※応募用紙は、企画政策課・市役所4階にあります。郵送も可。小田原市のホームページからもダウンロードできます。

※応募書類はお返ししません。
申込 1月17日（金）までに「必達」持参または郵送・ファックス・電子メールで。
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/t25008555>
〒250-0855
小田原市企画政策課
33-1239 33-1286
Eメール: kikaku@city.odawara.kanagawa.jp

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議にぞくぞくご意見。



教育、私はこう思う！
vol. 14

お正月の料理といえばおせち料理ですが、その意味や由来までは知らないという人も多いのではないのでしょうか。ライフスタイルの変化とともに、日本人の食生活も大きく変わってきましたが、その影響は大きいようです。

●教育総務課 ☎33-1671

テーマ「食生活と教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

わが家の食生活について

行事食をなるべく取り入れるように心がけています。ただ食べるだけでなく、意味や願いなどについても食卓で話そうにしています。もちつきなどは、核家族では難しい面もあるため、親戚などとのつき合いを大事にしたいものです。

食事のマナーについて

箸の正しい持ち方、配膳、片付けもできず、食生活に対する基本的マナーが身につけていない子どもが多く見受けられます。親は何を教えているのでしょうか。マナーを知らない親は、一緒に勉強するくらいの気持ちを持つ必要

があると思います。

子どもの食卓について

栄養の補給は言うに及ばず、親の手作り、愛情を自然に学ぶ機会が失われつつあります。特に「個食」と呼ばれる、家族と違う時間に一人で食事をとることが、中高生に多いと聞きます。家族団らんの場を大切にしたいものです。

食に関する意識について

昔に比べ食べ物が豊富なためか、食べることの大切さや食べ物の大切さなど、食に関する一人一人の意識が薄れているように感じます。

外食について

コンビニやファミリーレストランの利用は時間の短縮になりますが、手軽さ、安さ、便利さに負けない独自の味、つまり手作りにこだわることも大切ではないかと思います。今求められているのは、「心の栄養」ではないのでしょうか。



何気なく済ませがちな日々の食事を、意味のある食事へと変えてみるのが大切なようです。皆さんもまずは自分の食事について、今一度見直してみたいかがでしょうか。

このコーナーを読んで感じたことを、忘れないうちにぜひ近くの人と話してみてください。それが教育論議への第一歩となるのです。

支所・連絡所、小・中学校などに置いてある「意見カード」でのご意見もお待ちしております。小田原市ホームページの「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」でも受け付けています。

投稿フォームアドレス

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/>

活動紹介パネル展
各施設で終日展示

●1月27日(月)～2月1日(土)
13時～17時
市役所展示ロビー(2階)

●1月11日(土)～19日(日)
13時～17時
マロニエ
センター(市民会館4階)

●1月4日(土)～10日(金)
9時～21時
※6日(月)の休館日は除く
おたわら市民活動サポート
センター(市民会館4階)

ボランティア・市民活動
相談会

ボランティアや市民活動に関心のある方やこれから行いたいという方に、いろいろな情報を提供し、活動のきっかけなどの相談を行います。
また、多くのボランティア団体などの活動をパネルで紹介します。お気軽にお立ち寄りください。

ボランティア・
市民活動相談会、
活動紹介パネル展の
巡回開催
●おたわら
市民活動サポートセンター
☎22880001

身近にある 小田原の史跡

史跡を訪ね、シリーズで紹介します。

交通の要地として栄えた酒匂を訪ねて

酒匂宿は、交通の要所として古い歴史があります。現在も、交通量の非常に多い国道1号線を中心に栄えているこの酒匂地区を、町田小学校6年生の小林彩乃さん・浅野美穂莉さん・剣持日佳理さん・吉田沙生さんの仲良し4人組が訪ねました。

文化財保護課 331717

源頼朝が鎌倉に幕府を開くと、京都と鎌倉を行き来する人が多くなり、これに伴って交通施設が整備され、各地に宿駅が設けられました。酒匂は、東海道の足柄道と箱根道の分岐点にあたり、鎌倉入りの前夜の宿泊地としても繁栄しました。

今回最初に訪れたのは、鎌倉時代、将軍の宿泊地とされていた浜辺御所跡です。残念ながら今はその面影を残すものはありませんが、保健センターから酒匂神社あたりであったと推定され、「瓦屋敷」という地名がその

名残を伝えています。浜辺御所には、源頼朝をはじめとした代々の将軍が、箱根権現・三鳥神社・伊豆山権現に参詣するときにしばしばは宿泊したと、記録が残っています。

次に訪れたのは酒匂神社です。「この神社の中にいわれのあ

る大きな石があるから、どこにあるか探してみよう」と、みんなで境内を探してみました。「ここに大きな石があるけど、これかな?」その石は、境内の左側にありました。佐計村で有名な曾我兄弟の弟・曾我五郎の投石といわれている、親指の跡がある大石(長さ5cm×14.5cm×30cm)です。「これが指の跡?」「うん、そんなに大きいのか?」不思議そうな顔つきの4人でしたが、大きさを測ったり手で触ったりと、興味津々でした。

最後に訪れたのは、酒匂川の渡し場跡です。江戸時代になると、東海道五十三次が整備されました。酒匂川は通常、川越人足による肩車、または臺台渡しとなりましたが、増水したときなどは川止めで車を越すことが



左から、剣持さん・浅野さん・小林さん・吉田さん



酒匂の渡しの碑

など川止めで車を越すことが



酒匂神社の石

史跡巡りのハンドブック 好評発売中!

●身近にある小田原の史跡

～川東版～

販売価格…500円(内税)

●小田原の文化財

販売価格…1,000円(内税)

販売場所…行政情報センター(市役所4階)

酒匂川に橋や船がなくて、昔の人は不便だったんだなあと、思った。源頼朝や東海道五十三次など、学校の社会で習ったことが復習できてよかったです。(浅野さん)

学校で習っていない小田原の歴史のことがわかってよかったです。小林さん

酒匂神社の大きな石だけだと、本当に投げたのかな?ちょっと信じられません。(吉田さん)

平成14年度 小田原市民功労賞は この方たちに！

市民功労賞は、学術・文化・福祉・産業など、市民生活のさまざまな分野において功績のあった方たちに贈られます。今年度の受賞は次の方たちに決まりました。贈呈式は1月13日(祝)に市民会館で行われます。

市民交流課 ☎ 33-1703

※この賞は、市民の皆さんからの寄付金をもとに設置した「小田原市はう賞基金」により運営しています。

植山 達雄さん(穴部)

「小田原地区吹奏楽連合」の設立、市民吹奏楽団である「小田原吹奏楽研究会」の創立に力を尽くされました。本市の吹奏楽の基礎を築き、多くの市民に感動を与えてくれました。



近藤 敏雄さん(寿町)

箱根細工師として50年以上精励され、その卓越した技能をもって、市民文化の振興に尽くされました。



杉山 隆久さん(南町)

伝統産業「小田原かまぼこ」の隆盛に務められ、その技術や歴史的伝承を通して、本市の文化振興に尽くされました。



相洋 高校和太鼓部

平成13年度に「第25回全国高等学校総合文化祭(福岡大会)・郷土芸能部門」に出場し、優秀賞・文化庁長官賞を受賞。若さあふれる力強い演奏は、多くの市民に深い感動を与えています。



小田原ちやうちゃん製作ボランティアの会

本市の伝統工芸品である「小田原ちやうちゃん」の製作指導を通して、小田原ちやうちゃん夏まつりを隆盛に導き、その普及に尽くされました。



小田原市地域婦人団体連絡協議会

地域に根ざした女性の団体として、明るく住みよい社会、温かい心の通いあう地域社会の実現に、50年以上尽くされています。



第7回 Mokuture 「あなたのウッドクラフト展」 審査結果と展示会

産業政策課 ☎ 33-1515

「ベッド」などをテーマに「使いたい、持っていたい、作ってみたい」と思う木製品のアイデアを募集したところ、1,032点もの応募がありました。この中から入選作品を31点選び、入選者と制作者とで打ち合わせをして、実際に作品を作りました。12月11日(木)に開かれた審査の結果、大賞ほか各賞の受賞者が、次のとおり決まりました。

大賞「とべないトンぼ」
(鉛筆ホルダー)
斉藤拓弥さん
(湯本中学校3年)
制作者：南たんぼぼ

準大賞「ムカデ」(ペン立て・小物入れ)
小林遼さん(白山中学校2年)
制作者：サトウ工芸

準大賞「folding CD」(CDラック)
三浦朋子さん(横浜美術短大1年)
制作者：南浜松屋

優秀賞

「お茶の間おすけラック」

小宮由貴さん(泉中学校1年)

制作者：南木岡木工所

「どこでも〇X」

大野ゆきさん(鶴岡中学校1年)

制作者：麻路木木工所

「オトメ」

岡本葉奈美さん(城北工業高校2年)

制作者：南たんぼぼ

テーマ部門賞

「つめとぎどアスッパ」

小田竜さん(富士見小学校5年)

制作者：ミコ産業園

展示会

日時 1月28日(火)～2月5日(水)8:30～17:00

場所 市役所2階ロビー

※2月下旬には、なりわい交流館で展示する予定です。



日本テレビ

天国のダイスケへ 箱根駅伝が結んだ絆

放映日 1月2日(木)21時~23時24分
主な出演者 福山雅治さん・瀬戸朝香さん・小栗旬さんほか



毎年数々のドラマが生まれている「東京箱根間往復大学駅伝」は、今年で79回を迎えます。
今回ご紹介するのは、73回・74回大会に出場し、将来の活躍を期待されながら病魔に冒されなくなった、佐藤大輔さんという選手を題材にしたテレビドラマです。

東西新聞政治部の記者・飯田洋平(福山雅治)は、仕事上の失敗からスポーツ部に転属となり、失意のまま箱根駅伝の取材に出かけます。深く考えずに取材対象として選んだ拓殖大学の佐藤大輔(小栗旬)は、前回の箱根駅伝の家に向かう途中で、偶然見かけたランナーでした。

大物政治家を相手に、政治部の第一線で野心に燃えて活躍していた飯田からすれば、物足りない取材対象だった学生の駅伝。しかし、大輔をはじめ、大会に向けてひたむきに練習する選手たちを取材するうちに、飯田の駅伝に対する考えが

変わっていきます。
いよいよ迎えた大会当日。拓殖大学は

みごとシード権を獲得します。しかし大輔は突然の不調で、打ち上げパーティーで一人悔し涙を流していました。

箱根駅伝を間近で取材し、感銘も受けた飯田でしたが、政治部に戻りたい気持ちには変わらず、また由比子との結婚にも答えが出せず、自信を持って新しい一歩を踏み出せないまま、不本意に日々が続きます。

くすぶり続ける毎日が続くある日、ふと思いつく立ち、飯田は就職した大輔を訪ねました。するとなんと大輔は、再生不良性貧血で入院していました。不治の病と聞いながら、看病する周囲の人々への気遣いを忘れない大輔を見て、飯田はかつて大輔が語った「駅伝のタスキの重さ」に気付き、自分の生き方を問い直します。

そして、大輔のがんばりも、周囲の看病もついに及ばず、大輔は23歳の若さで亡くなりました。

大輔の死後、箱根駅伝7区のスタート地点に立つ飯田の姿がありました。大輔との「一緒にもう一度箱根を走ろう」という約束を果たすため、そして自らの生き方を問い直すため、飯田は走り出します。

「天国のダイスケへ」には、実際の箱根駅伝のコースである国道1号や中継所、そして協力いただいたエキストラの皆さんが登場します。
このほかにも、市内で撮影されたテレビドラマや映画などが、続々放映されます。市内のいろいろな場所やエキストラとして参加した人たちがどのように着場しているか、ぜひ見てみてください。撮影に協力してくださった皆さん、ありがとうございました。

※放映日は変更になることもあります。

●土曜ワイド劇場・火災調査官・紅蓮次郎(テレビ朝日)

放映日 1月25日(土)21時~22時54分
内容 謎に包まれた放火殺人事件の真相を、火災調査官・紅蓮次郎が、焼け跡の灰の中に残る証拠から解明。
主な出演者 船越英一郎さん・純名りささん・河相我聞さんほか
主な撮影場所 江之浦漁港・消防署ほか

●映画「黄泉がえり」

放映期間 1月18日(土)から、3週間限定ロケーション
内容 ある地域で、死者が当時のままの姿で蘇るという現象が多発。自分のことを思い続けてくれた人の前に、死んだはずの人がある日突然現れて……
主な出演者 草刈剛嗣さん・竹内結子さん・柴崎コウさんほか
主な撮影場所 市内・大野林道ほか

●サッポロビールテレビコマーシャル

放映日 1月1日(祝)から
撮影場所 小田原城・鍛冶町前広場ほか

市内のロケ情報は、小田原市ホームページでも随時お知らせしています。<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/roke.html>

このコーナーでは、映画・絵画・写真・小説・詩などの作品に登場する小田原を紹介しています。小田原が描かれている作品をご存じでしたら、市広報誌までお知らせください。 33-1261

輝く小田原人

妥協を許さないお菓子の魔術師

中島 真介さん

ホテルニューオータニ シェフパティシエ

7月5日・6日の2日間、ラスベガスで行われた「第1回ワールド・ペストリー・チーム・チャンピオンシップ」で、日本チームは総合5位に入賞、ペストシュガーピース（あめ細工部門）では優勝という、見事な成績を収めた。世界12か国から3人1組のチームで行われたこの国際製菓コンクールに、日本チームの一員として参加したのが中島さんだ。

小学校5年生のときに小田原市に引っ越してきた中島さんは、就職して東京に出るまで小田原で過ごした。「実家は小田原にあるので、今でもよく行きますよ」。

もともと手先を使う仕事が好きだった中島さんは、高校生のときに東京で見たホテルのたずまいに憧れ、高校卒業後、ホテルニューオータニ調理部に就職する。さまざまな下積み生活を経験した中で、一番印象に残ったのがお菓子作りだった。「何を食べてもおいしくて。材料がほとんど同じなのに、作り方によって全然違うものができあがるし、ゼロから作っていくところもおもしろいと感じました」。

コンクールには、指名を受けてメンバーに。「当日は13時間で12種類のお菓子を作らなければなりません」。

何度も練習し、秒単位で予定を立てました。デザイン関係の仕事をしている、小田原の小学校時代の友達にもアドバイスをもらい急遽に準備しましたよ。日本のあめ細工の技術は世界でもトップレベルと言われているので、何か一つは賞を持って帰りたいと思っていました。3位入賞はできなかったけれど、あめ細工部門での優勝は本当にうれしかったですね」。

参加資格は、その国に2年以上居住して製菓の仕事をしていることだったため、結果的に上位3チーム9人のうち5人は、お菓子の本場フランスの人だった。多くの強豪がひしめく中で、日本チームの奮闘ぶりは現地でも賞賛され、「ニュースウィーク」紙にも掲載された。「表彰式で日本チームが呼ばれたときに、優勝したアメリカチ

ームと同じくらい歓声が上がって感動しました。いろいろな人と知り合え、お世話になったシェフがとてもよくしてくれたり観客から『良かったよ』と声をかけられたりと、人の温かさを実感できた、いい経験でした。でも一番よかったのは、自分の欠点がよくわかったことかな。後輩のスタッフにも伝えたいですね。お菓子作りは、派手なように地味な仕事。毎日が戦いみたいなものですけど、また食べたいなと思ってもらえるようなお菓子を、これからも作っていきたいです」。

中島さんは、「明るく楽しくおいしく」をモットーに、今日も自分と戦っている。



パティシエとは、フランス語で「お菓子屋さん」という意味。現在中島さんは、ホテルニューオータニのパティシエ41人を束ねるシェフパティシエ。



まちづくり応援団準備会 「千年蔵構想」で計画賞を受賞



市長に受賞を報告する準備会のメンバーたち

「千年蔵構想」は、こうした地域の資産に着目したまちづくりの構想と、まちづくり応援団を核とする今後の行動指針をまとめたもので、行政主導のまちづくりから、市民自らが構想し実践するまちづくりへの移行を提唱している点が特徴です。

このほど銀座商店街にオープンした「まちえんカフェ」が、7月16日では、準備会のメンバーが構想を紹介しています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

政策総合研究所の市民研究員グループの「おたわら千年蔵構想」が、第8回日本計画行政学会計画賞を受賞し、「まちづくり応援団準備会」のメンバーが市長に報告しました。

「千年蔵」とは、歴史・文化・生活にかかわる無数の資産が整理されないままにあるまちの状態を、古い蔵に見立てたもの。準備会では今年度、多様な担い手の参加と連携によって、その資産を活用するための実証研究を展開していきます。

小田原
時記

西さがみ連邦共和国の魅力再発見

心におみやげ、
見つけて小田原。

西さがみ連邦共和国のエリアは、富士箱根伊豆国立公園の一角をなし、温泉あり、名所・旧跡あり、祭りあり、みやげありの国内屈指の観光地。読売新聞大阪本紙が選定した、「行ってみたい、歩いてみたい、日本の100か所」を紹介する「遊歩百選」にも、西さがみ連邦共和国は選ばれています。今回は、遊歩百選に選ばれた、西さがみ連邦共和国を巡る2泊3日の欲張りな旅をご紹介します。

●小田原市観光課 033-1521
箱根町観光振興課 0460517410
真鶴町産業観光課 681131
湯河原町観光課 632111

1日目 「しっとり」と深呼吸 ゆったりと温泉」コース

歴史ある史跡・景勝の地を巡って、紺碧の相模湾を眺めながら自然いっぱいウオーキングを楽しむんだとは、湯の街・湯河原で心と体を癒します。



●しとどの窟
源頼朝が旗揚げ、石橋山の合戦に破れた一行が、土肥山中を逃亡の途、追手の目を逃れるために隠れた岩窟で、20体余りの石仏が安置されています。

周辺の見どころ

●三ツ石

真鶴半島の最突端、岬の断崖に続く岩壁の一部で、正式名は「笠島」。その名の通り、笠に似た3つの大岩が、満潮時には海中に、干潮時には陸続きとなって見えます。

コース順路

- 真鶴駅 <徒歩60分>
- 三ツ石海岸 <徒歩20分・原生林>
- サボテンランド <バス15分>
- 真鶴駅 <電車3分>
- 湯河原駅 <バス10分>
- 五郎神社 <徒歩30分>
- 幕山公園 <徒歩90分>
- しとどの窟 <バス30分※>
- 湯河原温泉

※本数が少ないので注意

●湯河原梅林

幕山山頂までの遊歩道は四季折々の草花が咲き、すばらしい景観を楽しめます。特に幕山を背景とした梅林は人気。梅の宴は1月26日開園。

●真鶴半島遊覧船

真鶴港を出発し、三ツ石の沖を通りサボテンランド沖でUターンして真鶴港まで戻る約30分のコース。1日6便、約40分おきに出ています。



コース順路

- 箱根湯本駅 <電車8分>
- 入生田駅 <徒歩3分>
- 県立生命の星・地球博物館 <徒歩50分>
- 石垣山一夜城歴史公園 <徒歩55分>
- 小田原文学館・白秋童謡館 <徒歩10分>
- 小田原城天守閣・歴史見聞館 <徒歩7分>
- 小田原駅

●小田原城

室町時代に大森氏が築いた山城が前身で、その後戦国大名北条氏の居城となっており、関東支配の中心拠点として発展しました。関東唯一の天守閣展望台から望む相模湾は絶景。



2月には曾我梅林とともに梅まつりが開かれ、句会や野点などを実施。

●県立生命の星・地球博物館

動物や植物、恐竜やアンモナイトの化石が展示されていて、46億年の地球の歴史を体験できます。

周辺の見どころ

北条早雲以来500年に及ぶ、悠々とした歴史とロマンに満ちた史跡をたどります。

3日目 「海の城下町で歴史と文化に触れる」コース

コース順路

- 湯河原駅 <バス55分>
- 箱根関所跡 <徒歩20分>
- 旧街道杉並木 <徒歩10分>
- 元箱根 <徒歩30分>
- 旧街道石畳 <徒歩30分>
- 甘酒屋茶屋・箱根旧街道資料館 <バス50分>
- 箱根湯本温泉

●杉並木

箱根宿を設けたときに植えられたと伝えられ、現在でも412本の太木が茂っています。

●旧街道石畳

小田原箱根口から芦ノ湖野までの上り4里、三島までの下り4里をあわせて「箱根八里」といい、苦難の道でした。湖から煙道まで、往時の石畳が保存整備されています。

周辺の見どころ

●箱根関所跡

1618年、徳川2代将軍秀忠の時代に、江戸の守りを固めるために開設され、250年の間、東海道唯一の難所と人々に恐れられた関所の跡地。当時の場所には、国の指定史跡で取り調べの手付石といわれている石や、建物の礎石が、往時のまま保存されています。



2日目 「往時の旅人を偲び、石畳を歩く」コース

「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」。当時を偲ばせる石畳の路をたどり、箱根で最も人気のあるコース「箱根旧街道」を下ります。